

新任教員研修ワークショップのオンライン開催について

- 高畑 貴志 (大学教育創造センター) ■ 杉田 郁代 (大学教育創造センター／教育学部)
■ 俣野 秀典 (地域協働学部／大学教育創造センター) ■ 塩崎 俊彦 (大学教育創造センター／地域協働学部)

キーワード：FD，新任教員研修，オンラインワークショップ，Microsoft Teams，SPOD

1. はじめに

高知大学では大学教員として新たに採用された者を対象に、新任教員研修プログラムを受講することを求めている¹⁾。この新任教員研修プログラムの必修科目の一つに、「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」という新任教員FDが位置付けられている²⁾。このワークショップは、令和元年度までは対面研修として実施されており令和2年度も対面研修を実施する計画だったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、オンライン研修に実施に切り替えて実施することとなった。このワークショップは、対面研修をオンライン化するだけでなく、学外の参加者を受け入れ、かつ、高知大学の契約するOffice365上のMicrosoft Teamsで実施したため、いくつかの困難を克服する必要があった。この報告では、オンライン研修として開催されたこのワークショップについて説明する。

2. 学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

2018年度より制度化された高知大学の教育力向上を

目的とした新任教員研修プログラムでは、必修6研修、選択必修A・Bからそれぞれ1研修以上、それ以外の選択研修から4研修を、採用日から3年目の年度末までに受講することを求めている。「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」（以下、授業準備ワークショップ）は、この新任教員研修プログラムの必修科目の一つとして位置付けられている。

この授業準備ワークショップは四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）で標準化された新任教員研修であり2010年度からは徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学で開催されている³⁾。このため、SPOD加盟校の教員はどの大学の新任教員研修を受講してもよいことになっている。高知大学では2011年度からSPODで標準化された2日間の新任研修FDワークショップを開催しており、2013年度からは「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」という名称で開催されている。

授業準備ワークショップの内容を2018年度当初の実施要項をもとに表1に掲載する。

表1. 2018年度の授業準備ワークショップ（計画）

<p>1日目（9月4日（火）9：00～20：00、交流会含む） 開会式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.グループワークⅠ「良い授業とは？」 3.ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」 4.グループワークⅡ「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」 5.ミニレクチャーⅡ「コースデザインの考え方」 6.ミニレクチャーⅢ「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」 7.ミニレクチャーⅣ「様々な成績評価、その目的と方法」 8.グループワークⅢ「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」 9.グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 10.グループワークⅣ「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」 <p>交流会</p>
<p>2日目（9月5日（水）9：00～12：00）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11.グループワークⅤ「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」 12.グループ発表Ⅱ（模擬授業） 13.ふりかえり <p>閉会式</p>

しかし、2018年度は台風の接近のため9月4日の開催を取りやめて、1日目の内容を中心にアレンジした内容を9月5日の1日で実施することとなった。当初の計画ではグループで1つの共通教育科目を開発するところを、各自が担当する科目のシラバスを作成するように変更した。さらに、ミニレクチャーを参考に各自が作成したシラバスを、グループで共有した後に改善したものを、ギャラリーウォーク形式で全受講生が相互コメントするという構成を採った。さらに、2日

目の内容は研修後のレポートで代替した。加えて、同じ構成の研修を2019年2月7日にも開催した。

なお、2019年度は、表1と同様の内容（交流会は実施しない）で、9月3日・4日の2日間で実施した。

3. 授業準備ワークショップのオンライン化

2019年度に立てた2020年度の授業準備ワークショップの計画は、例年同様に表1（交流会は実施しない）の内容を9月8日（火）、9月9日（水）の2日間で開催するというものであった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月28日には第1学期には対面による授業は実施しないというガイドライン⁴⁾が発表される状況となり、計画の修正が必要となった。

最初の修正時には、2018年度に1日開催に変更した際の構成や、新任教員研修プログラムに反転授業を取り入れている徳島大学の例⁵⁾などを参考にして、非同期型オンライン研修と対面研修（1日開催）を組み合わせた計画案を作成し、6月24日の教育企画会議で報告した。

しかし、7月2日に改訂されるガイドライン⁶⁾で「教員免許状更新講習、高大連携事業等の実施も、対面ではない方法での実施を基本とする」との方針が示される予定であることに対応して、対面研修を同期型オンライン研修に急遽変更した。この変更に当たっては、以下の2点が大きな検討課題となった。

1. 同期型オンライン研修用の会議システムの選択
2. 高知大学以外のSPOD加盟校からの受講の可否

同期型オンライン研修用の会議システムとしては、Microsoft Teams（以下 Teams）と Zoom を候補に検討した。グループワークの実施等、同期型オンライン研修には Zoom が適しているが、高知大学として組織的に提供されている会議システムは Teams であったため、授業で用いる会議システムを実際に体験するという観点から Teams を採用した。また、2020年度のSPOD 新任教員研修プログラムは、開催する4大学すべてが開催大学の教員のみ受講可という条件に変更されていたが、全てオンライン研修の構成であれば、他大学からの受講も問題ないとの判断で、SPOD 加盟校

からの受講を受け付けることとした。

最終的に、授業準備ワークショップの研修プログラムは表2のような構成とし、7月2日にアナウンスした。

表2. 2020年度の授業準備ワークショップ

<p>目的</p> <p>学生の主体的な学びを引き出すオンライン授業を行うために必要となる知識や技術を体験的に学びます。</p> <p>具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程について非同期型オンライン研修を通じて理解し、シラバスの作成からオンラインでの授業展開までを体験します。</p>
<p>目標</p> <p>(1) 適切な授業の目的・目標設定ができる。</p> <p>(2) わかりやすいシラバスを書くことができる。</p> <p>(3) さまざまな授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる。</p> <p>(4) さまざまな成績評価の方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる。</p> <p>(5) 学生の主体的な学びを取り入れたオンライン授業を導入できるようになる。</p>
<p>①非同期型研修（8月17日～9月5日）</p> <p>moodle によるオンライン研修を受講します。</p> <p>オンライン研修1：目標設定と授業計画、シラバスの書き方</p> <p>オンライン研修2：コースデザインの考え方</p> <p>オンライン研修3：様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット</p> <p>オンライン研修4：成績評価、その目的と方法</p> <p>研修課題</p> <p>1. 自分が担当するオンライン授業のシラバスを作成する</p> <p>2. 1の授業の1回分のオンライン授業を作る</p> <p>3. 2で作成した内容を高知大学 moodle に登録する</p> <p>②同期型研修（9月9日）</p> <p>Teams による同期型オンライン授業を経験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・作成した授業に関するプレゼンテーション ・オフラインでのブラッシュアップとフィードバック ・意見交換／振り返り

4. 非同期型オンライン研修

非同期型オンライン研修のプラットフォームには、高知大学 moodle2020を使用した。非同期型オンライン研修用コースの構成は表3の通り。

表3. 非同期型オンライン研修用コースの構成

<p>オリエンテーション</p> <p>研修の概要やスケジュール・課題の説明用動画</p>
<p>オンライン研修1～4</p> <p>表2の4つの研修の教材と確認問題</p>
<p>研修課題</p> <p>受講者の担当する授業について以下の3点を提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業全体のシラバス ・ 1回分の授業全体の内容の説明資料 ・ 授業で用いる10分程度の動画
<p>その他</p> <p>マニュアル類：moodle 操作、動画作成等</p> <p>質問用フォーラム</p> <p>事前アンケート</p> <p>オンライン授業に関する補助情報</p> <p>体験用の非同期型オンライン活動サンプル</p>

非同期型オンライン研修のコースは高知大学 moodle2020に作成し、学外からの受講者には、一時的にローカルアカウントを発行して、学生として登録した。受講期間は8月17日～9月4日とし、課題提出の締切を9月4日に設定したが、受講・提出の遮断は行わない設定とした。

研修課題「1回分のオンライン授業」として提出された内容は、4人程度のグループごとに共有できるよう9月5日にコースに掲載した上で、9月9日の同期型オンライン研修前に目を通しておこう、受講者に求めた。

なお、このコースは、同期型オンライン研修後も、9月30日までアクセス可能な状態で提供した。

5. 同期型オンライン研修

5.1. 同期型オンライン研修の内容

同期型オンライン研修は、著者らが受講したオンラインFD等を参考に、以下のような内容とした。

アイスブレイクは、Office365で提供されるデジタルノートブックであるOneNote、および、オンラインホワイトボードMiro⁷⁾を用いて、参加者のこれまでの経験やオンライン授業に対する考え方を共有するものとした。これらのツールを体験し自分の授業に取り入れる際の参考にしてもらうこと、および、この同期型研修で用いるMiroの操作練習も、アイスブレイクのねらいとした。

午前のグループワークでは、4人1組のグループごとにTeamsのビデオ会議を割り当て、自分の授業についてプレゼンテーションをしてもらった。質疑応答を含めて、一人20分の時間を取った。

オフラインでのブラッシュアップとフィードバックでは、午前中のグループワークを振り返り、(A)自分のシラバスのブラッシュアップを1. 到達目標、2. 授業方法、3. 評価方法、4. その他の分類別にまとめること、および、(B)オンライン授業について気づいたことや自分の授業で取り入れてみたいことの2つをワークシートにまとめ、非同期オンライン研修用のコースに提出することを求めた。また、グループの他のメンバーへのコメントを、Miroのボード上に設けた各メンバー用の区画に付箋紙で貼ってフィードバックすることも求めた。オフライン活動は、昼食の休憩時間を含めて2時間30分を割り当てた。

午後のグループワークでは、最初にグループに分かれたビデオ会議で、自分のブラッシュアップについて一人10分程度で説明してもらった後は、オフライン活動のまとめとして提出されたワークシートをスタッフが貼り付けたMiroのボード上で、ギャラリーウォーク形式で、意見交換を実施した。

同期型オンライン研修のスケジュールを、表4として掲載する。

表4. 同期型オンライン研修のスケジュール

10:00 オープニング
アイスブレイク
10:30 午前のグループワーク
12:00 オフライン研修開始
14:30 午後のオープニング
14:40 午後のグループワーク
ギャラリーウォーク
15:50 クロージング
16:00 研修終了

実際には、同期型オンライン研修当日に一部の学部の教授会が開催されることになり、一部受講者の研修時間をずらして同じセッションを複数回実施して対応することとした。表4には基本的な受講スケジュールを掲載している。また、このために当初の予定から終了時間を1時間早く変更した。

5.2. 同期型オンライン研修の開催形態

高知大学のTeamsでは、ビデオ会議に学外者を招待できるが、Teamに参加させることはできなかった。また、Team(のチャンネル)内に予定した会議に学外者を招待する場合は、学外者は会議チャット機能を利用できない。このため、すべての会議はTeam内には設置せず、予定表にチャンネル指定なしで予約することで準備した。学内の受講者は会議の「任意の参加者」に登録して通知が発行されるようにした。また、学外の受講者には、「会議の詳細」に含まれるハイパーリンクのURLを用いた案内メールを送って案内した。(このURLは学内・学外の受講者に同じものが発行される。)

グループワークのために、同時時間帯に4つの会議を予定表にチャンネル指定なしで予約した。それぞれの会議(会場と呼ぶこととした)は、受講生は登録せずに準備して、会議の詳細に含まれるハイパーリンクのURLを会議チャットに貼り付けて、会場間の移動を促した。

5.3. Teams 研修実施の工夫

このような同期型オンライン研修を円滑に進めるために、以下のような工夫を取り入れた。

1. 【接続テストの提供】事前に3回の接続テストの機会を用意した。学外からの受講者には原則として必須とした。
2. 【待ち受け画面の掲載】接続した会議が適切なものであることが分かるよう、会場名を記載した待ち受け画面を用意し、会場で活動が行われない間に表示されるようにした。
3. 【詳細なタイムスケジュールの作成】スタッフと受講者の動きや、実施すべきこととその担当者を、詳細に記載したタイムスケジュールを作成し、スタッフ間で共有した。
4. 【接続困難者への対応】同期型オンライン研修当日に技術的なトラブルを生じた受講生への対応のため、2名のスタッフが対応に当たることとして、受講生に連絡用の電話番号を伝えた。
5. 【スタッフ間連絡用チャット】同期型オンライン研修当日のスタッフ間の情報共有と連絡のため、Teams のチャット機能を用いた。
6. 【リンク集の作成】同期型オンライン研修で用いる会議、グループ活動用オンライン題材 (Miro, OneNote)、課題提出用 moodle コースへのハイパーリンクを1つの Word ファイルにまとめ、スタッフで共有した。
7. 【会議のモニタリング】研修当日は、全体会場とグループワーク用の4つの会場の計5つの会議に常時接続して、適宜モニタリングした。1つの端末では最大4つの会議までしか同時接続できないため、複数端末を用意する必要があった。

6. 研修の実施

非同期型オンライン研修と同期型オンライン研修の実施状況について簡単にまとめる。

受講申し込みのあった30名の受講生のうち、3名は非同期型オンライン研修のみの受講申し込みだった。その後、受講取りやめや、非同期型オンライン研修の

みへの受講変更があり、最終的に22名が、同期型オンライン研修まで受講することとなった。

非同期型オンライン研修に用意した事前アンケートには23名の回答があり、以下のような結果であった。

表5. 1学期に開講したオンライン授業(複数選択)

オンライン授業は開講していない	2
メールや KULAS を用いた資料提示と課題提出	7
Moodle 等の e-Learning システムを用いた非同期型オンライン授業	13
Teams や Zoom を用いた同期型オンライン講義配信 (グループワークなし)	11
Teams や Zoom を用いた同期型オンライン講義配信 (グループワークあり)	6
その他	2

表6. 2学期に実施したいオンライン授業(複数選択)

オンライン授業を開講する予定はない	3
メールや KULAS を用いた資料提示と課題提出	5
Moodle 等の e-Learning システムを用いた非同期型オンライン授業	10
Teams や Zoom を用いた同期型オンライン講義配信 (グループワークなし)	7
Teams や Zoom を用いた同期型オンライン講義配信 (グループワークあり)	13

研修課題は9月4日の締切までに22名中17名が提出した。9月8日までには、同期型研修を受講する22名全員から提出があった。

9月9日の同期型オンライン研修では、1名が技術的な問題で研修開始が遅れた他は、大きな問題なく実施することができた。遅れた1名も、グループワークでの発表には間に合い、受講を終えることができた。

7. 研修の評価と考察

今回の研修に対する受講者の評価を、受講者アンケート結果から抜粋して、2018年度、2019年度の研修と比較したものを掲載する。

この3年度の研修の受講者とアンケートの回答者数は表のとおりである。学外からの受講者が多かったことは本年度の特徴と言える。

表7. 過去3年度のワークショップ受講者数

	2018	2019	2020
受講者数	20	8	22
うち学内	17	7	16
うち学外	3	1	6
回答者数	20	8	20

これから提示するアンケート結果のグラフの凡例は、全て共通で図1の通りである。



図1. アンケートの凡例

研修の全体的な満足度では、図2のように概ね肯定的であったが、これまでにない否定的な意見が少数ではあるが見られた。

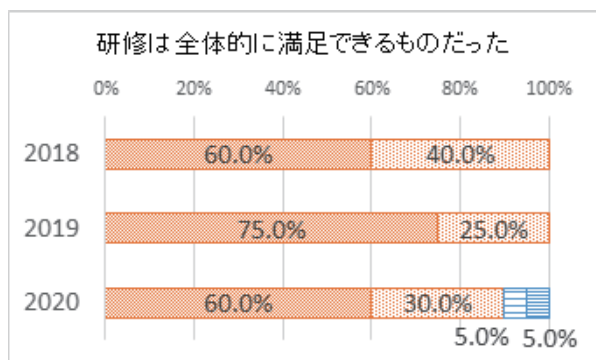


図2. 研修の全体的な満足度

4つの到達目標の達成度でも、大まかな傾向は例年と似通っているが、否定的な意見が若干増加した。

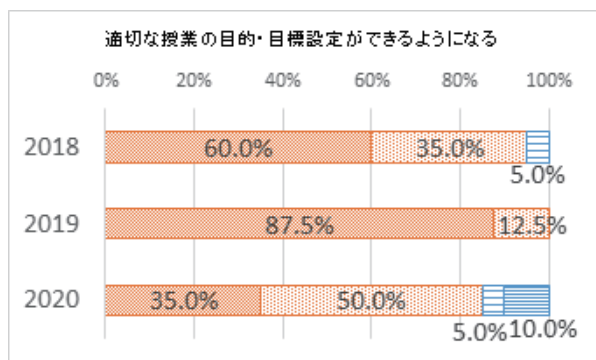


図3. 到達目標1 (授業の目的・目標設定)

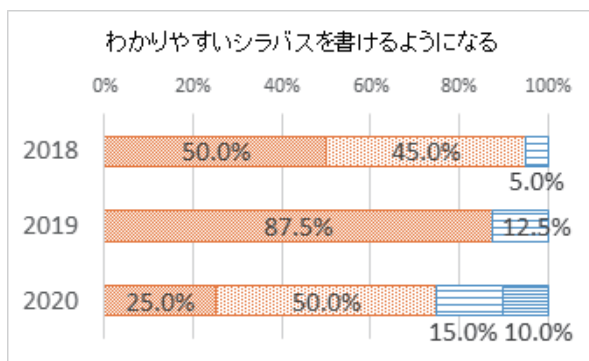


図4. 到達目標2 (わかりやすいシラバス)

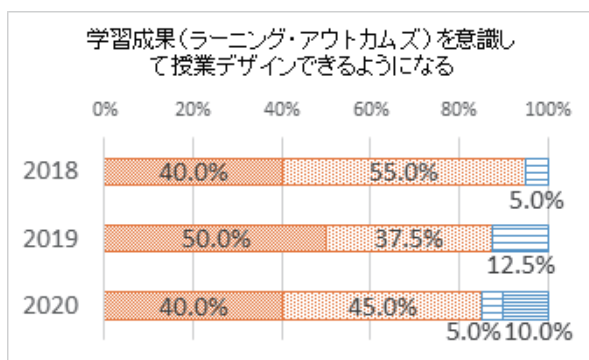


図5. 到達目標3 (学習成果への意識)

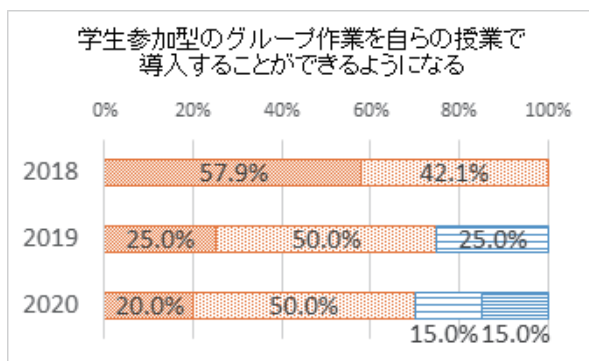


図6. 到達目標4 (グループワーク)

これらの到達目標に対応した内容は、非同期型オンライン研修で扱ったものの、実際に作成した自分の授業内容のブラッシュアップを通じて、自分のものにしていく過程が不十分であった可能性が考えられる。同期型オンライン研修で体験したグループワークの実例や実現方法に関して、非同期型オンライン研修に詳しく盛り込んでいくことで、グループワークに関する達成度の改善に繋げたい。

研修の順序に関しては、例年よりも分かりにくくなっていたことが確認できる。このことは研修の全体的な満足度などの低下要因として考えられる。今年度の研修構成の参考にした2018年度でも、否定的な意見が見られることから、全体の構成の必要性が示唆される。

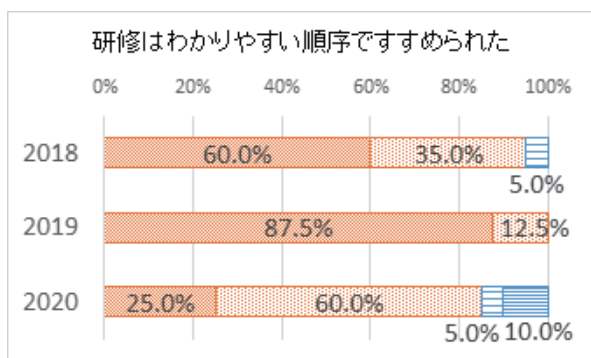


図7. 研修の進め方のわかりやすさ

また、研修による人的なつながりの広がりについても、例年よりも劣った結果となった。

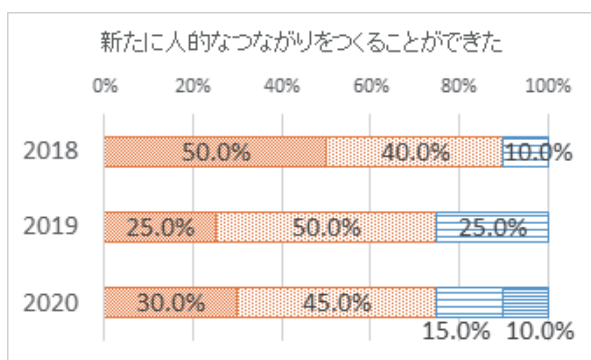


図8. 新たな人的つながり

例年よりも肯定的な回答が多かった項目としては、意欲を高める講師の言動が挙げられる。

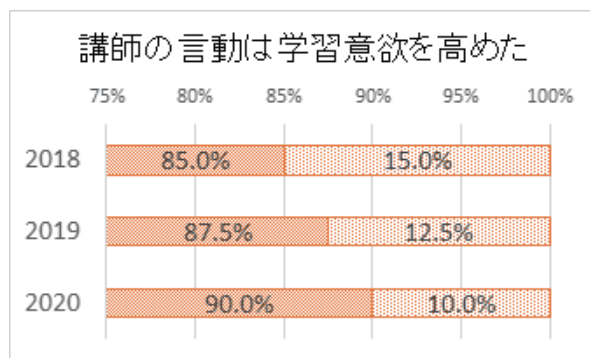


図9. 講師の言動による意欲向上

8. まとめ

2020年度のコロナ禍に対応して、高知大学の新任研修ワークショップをオンライン研修としてひとまず無事に実施できた。特に、他大学からの研修を受け入れて研修を実施できたことは、四国の高等教育に対する貢献と言えよう。

一方で、研修の内容に関しては、例年と比較するとやや劣った評価に留まった。来年度以降の新任研修ワークショップを今年度と同じ形式で実施する必要があるかは、現時点では不明であるが、オンライン研修とする場合は、今年度の反省を踏まえるとともに、今年度に経験し学んだ内容を活かして、より充実した新任教員研修を実施できるよう努めたい。

謝辞

ダイナミックヒューマンキャピタル社の中村文子氏と、石川県立大学の小椋賢二教授には、本ワークショップに先立ち、本学でオンライン授業に関するFDを開催していただき、その内容は本ワークショップを実施する上で大変参考になった。ここに、お礼申し上げます。

参考文献

- (1) 高知大学、教育力向上を目的とした新任教員研修プログラムの実施に関する要項、平成30年3月26日。
- (2) 高知大学、教育力向上を目的とした新任教員研修プログラム受講要領、平成30年3月26日。

- (3) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク、平成22年度活動報告書、平成23年3月。
- (4) 高知大学危機対策本部、教員用新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドライン【第3報】、令和2年4月28日。
- (5) 吉田、川野、塩川、上岡、徳島大学における「授業設計ワークショップ」の成果と課題、令和元年度 大学教育カンファレンス in 徳島、2019年12月26日。
- (6) 高知大学危機対策本部、教員用新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドライン【第5報】、令和2年7月2日。
- (7) Miro, An Online Collaboration Platform for Teamwork | Miro, <https://miro.com/index/> (情報取得2020/09/13)。